

## 平成30年4月17日 第20回議会改革推進特別委員会会議録

1 招集の日時 平成30年4月17日（火）午前10時

1 招集の場所 中会議室A

1 協議事項

- (1) 特別委員会報告書の文案検討
- (2) 今後の委員会日程の確認

1 開会日時 平成30年4月17日（火）午前10時5分

1 出席委員

委員長	荒川 栄悦 君	副委員長	浅沼 幸雄 君
委員	小林 立栄 君	委員	菊池 美也 君
委員	萩野 幸弘 君	委員	菊池 由紀夫 君
委員	佐々木 大三郎 君		

1 欠席委員

委員 細川 幸男 君

1 事務局職員出席者

事務局長 菊池 享 君 次長 佐藤 邦昭 君

午前10時5分開会

○副委員長 （開会）

○委員長 ご苦勞様でございます。6月にはこの委員会の報告書を提出しなければならないので、文案の検討と、今後の委員会の進め方を協議します。報告書の文案を説明願います。

（事務局から協議内容について説明）

○委員長 報告書の構成なども含めてご意見をいただきたい。議員の定数報酬に関しては、議長からの要請はあったが、いろいろな議員個々の思いがあるので、委員会内の結論だけでいいものではない。議論を経て最終的にここに至ったことを記載して、結論としたい。異論はあっても現実はこちらだということを示さなければならない。

報告書としての文章化をどうするか、残りの日程の中でまとめ上げて、6月定例会前の全協に報告して意見を募り、最終的な報告書にする。

○由紀夫委員 報告書としてのあり方としては、経過等はその通りでも、結果として7項目ごとに出た結果を中盤で整理して、ICTについては申し送り事項としてこの通り、結果を文章化して強調していくべき。最後には申し送り事項としてまとめるが、前文なりには委員長の思いを入れた文章を加えるべき。

○委員長 項目ごとに、検討した目的、適用した条文、経過、結論を文章化していくべき。各委

員に項目を分担して文章化していただき、委員長はまとめを書く。

- 美也委員 各委員が分担するのも方法だろうが、26年の特別委員会の報告書も、由紀夫委員が言ったような構成で、検討項目とは別に経過を述べて、次に議員定数、更に議員報酬、最後にまとめとして今後を求めることとなっている。報告書の書き出しに続いて7項目に触れ、最後にまとめをし、その次にこれまでの経過をまとめる。
- 委員長 これまでの委員会開催の経過等は資料として末尾に付け加えるという事。
- 美也委員 ただ、これから7項目を割り振ると言った時に、最後には委員長が校正する必要がある。
- 委員長 それぞれが書いたものをみんなで読み込んで、必要な修正は加えていく。そのようにして報告書にまとめていこう。
- 萩野委員 分担するのではなく、みんなそれぞれ7項目に対する意見もあり、出し合ってまとめた方がよい。みんなでやった方がよい。最初はタブレットを導入することが発端であり、その検討は議運ではないとなり、この委員会が立ち上がったのであり、最初がICTのこの7項目を見たとき、後付けで残りが付いてきたもの。報告書とすれば、26年の報告書が有るので、そこからつながるものにするべき。箇条書きの形式は見やすい。内容の過不足を確認しよう。結論を最後にして、こうした構成でよい。次の回で読み込んだ内容を確認できればいい。
- 佐々木委員 報告書をどのようにまとめるべきか考えた時に、1. から3. はこのまま生かして、4項目目に取り組みの経過を入れて、5として今後の検討課題、これまでの経過は参考資料に添付するべき。委員長は項目別にとの意向だが、分担するとつぎはぎの報告書になる。
- 小林委員 この委員会の目的は、議会をいかに魅力的にするか、議員間討議とか条例の制定という思いがあって、議長副議長の選出でも演説などが議論になっていてスタートした。魅力化の上で報酬の話は出てくるもの。報酬定数についてあまり盛り上がらなかった。報告書については、箇条書きでいいのでは。次期の議員にも市民にも分かり易い。最初と最後は文章にしても、項目ごとのまとめまでは箇条書きでよい。内容さえ精査していけばよい。
- 委員長 いろいろ出まして、分かり易いということが大事です。
- 由紀夫委員 見やすくていい。前文は委員長が書いて、開催状況も必要で、結論を最後に示して経過はこれでよい。全体に集約していい。結果は項目ごとにまとめ、申し送る事項、まとめ文とする。あとは語句の精査をすればいい。
- 副委員長 申し送り事項ではなく、前回の報告書のように結果を示して、今後の課題とすべき。
- 委員長 報告書は公開すべきで、これが委員会の取り組んだ経過であって、取り組めなかった事項もある。取り組んだ内容はしっかり残してほしい。成果も残せた。時間切れの事項を課題として報告する。1項目ずつの内容を精査するので、あと2回には時間を要する。
- 萩野委員 26年の報告書の形式を踏襲し、箇条書きでまとめた部分を残し、今日はこのスタイルで良いかどうかを確認し、内容は各自で持ち帰って精査して、まとめは委員長にお願いしたい。何を行ってきたか委員長の思いを示してほしい。
- 副委員長 ページ数はこの数になるのか。
- 委員長 おおよそこれに近いページ数になるだろう。
- 副委員長 全体にページ数が多いので、資料としては必要だが。
- 次長 回を追った細かい部分は後半に資料として編集する。
- 佐々木委員 報告書として作る以上は、このような流れで作る必要があると思うし、経過のと

- ころの開催状況は資料で後半に。1点疑問は、委員長のまとめはどこに入るのか。
- 次長 今後の課題と参考資料の間に入る。至った結論の作成はこれからお願いする。
  - 由紀夫委員 本文として、課題ごとの経過は整理して掲載すべき。次に結果、今後の課題、委員長のまとめ。経過を資料にしてしまうと分からなくなる。6は載せるべき。
  - 萩野委員 経過があって、結論、今後に応し送る事項があって、まとめの文章を載せて、報告書とするのはどうか。
  - 由紀夫委員 経過と結果が一つになっているから、これは分けた方が良い。項目ごとの欄の最後に結論を付け加えるでも良い。
  - 萩野委員 7項目の課題は報告する事項の目次で、6ページ以降に結果がまとめて記載される。続いて今後の課題、まとめで委員長の思い。
  - 次長 今後の委員会の開催日程の確認を。ICTについては5月15日の回答を受けてからなので5月の後半、その他の6項目を連休明けに意見を持ち寄って成文化する。
  - 委員長 次回は5月8日の午前9時半にして、資料を読み込んで、持ち寄っていただく。
  - 萩野委員 その次はICTの件だけだから、17日（市政調査会・午後）の午前中ではどうか。
  - 次長 報告書の素案は6月4日の全員協議会に示さなければならない。
  - 副委員長 8日、17日の検討の結果を見て、全協前に予備日を設けておこう。
  - 委員長 28日に予備日を設けておこう。
  - 萩野委員 7項目の取り組んだ結果を、各自考えて次回持ち寄ることによろしいか。
  - 委員長 条例改正の必要性があって、今だに成されていない点があるので、それを6月に提起することも考えられる。報告書に盛り込んで、議運に検討を求める。
  - 副委員長 改選後の議会改革をどのような組織で進めるのかを明確にしておかないと、特別委員会になってしまう。常にあるべき組織は特別委員会ではない。基本条例の改正か、委員会条例の改正も伴うのか。倫理規程はどうなったか。
  - 小林委員 条例にまではしない。それに代わることで規程を検討した。
  - 美也委員 委員会の結論として常任委員会化が必要として、6月定例会の改正案を示そう。
  - 小林委員 改正は9月定例会でも間に合う。
  - 副委員長 委員会の任期中に提案だけして、議運、全協の取り計らいとしよう。
  - 萩野委員 次回にそのことを議論するのですよね。
  - 委員長 倫理規程も原案を作ったので、それをどうしますかという報告書にすればいい。
  - 副委員長 議会改革の組織を常任委員会化することで、議会改革に取り組む議会の意思が示せて、市民にも伝わるのでやった方が良い。
  - 小林委員 9月定例会の上程であればパブリックコメントも取れるのではないか。
  - 副委員長 それも含めて次回の議論に。
  - 委員長 その他の事項が無ければ。
  - 次長 報告書に加える事項をデータで提供願います。今日のデータで各委員にお送りします。
  - 委員長 では事前に事務局に届けてください。以上で終わります。
  - 副委員長（閉会）

閉会11時47分